

第6回北方学園開校準備委員会 会議要旨

と き 令和4年2月28日

ところ 役場3階 委員会室

※会議の主な内容は以下のとおり

事務局：定刻どおり第6回北方学園開校準備委員会を始める旨を告げる。（9時30分開始）

教育長：会議に先立ち、あいさつを述べる。また、北方学園構想の進捗状況について報告する。

委員長：あいさつを述べる。

委員長：次第に基づき、各部会での今年度の協議内容について説明を求める。

各部会長：資料をもとに各部会より今年度の協議内容について説明を行う。

委員長：北方学園構想の進捗状況及び各部会からの報告に対し質疑応答を行う。

（主な協議内容）

○北方学園クラブの事務局に運営マネージャーを配置するとありますが、こういった方を配置されますか。

⇒町職員であり、生涯学習センターに専任で配置する予定です。

○9年生の修学旅行について、資料の中で「平和旅行」という表現をされているが、今後はこういった表現にされるのでしょうか。広島、長崎などについて学ぶことは大変良いことであると思いますので、9年生でしっかり学んでいただきたいと思います。

⇒今のところ「平和旅行」としたいと考えていますが、これは、あくまでも初期設定であるので、学園が開校した後に、学校で正式に決定すると思います。

○後期課程の鞆について、現在のを継続し校章のみ変更するとのことですが、令和5年度の8・9年生については、どうなりますか。

⇒令和5年度に入学する生徒から、学園の校章が印刷された鞆を使用することとします。

8・9年生については、制服と同様に、入学当初購入された鞆を卒業まで使用していただきます。

○新築された北方小学校の管理棟の南側の外壁に、絵でも描かれてはどうでしょうか。

○これから一番大変なのは、北方科など、新しいことを試みる先生方であると思います。地域にも経験豊富な方がおられるので、その方々のご意見を生かして指導されるとよいと思います。また、北学園と南学園がバランスよくスタートできることを願っています。今

後、個性が出てくると思いますが、北学園と南学園で共通理解をしながら進めていっていただきたいと思います。

○部活動について、北方中学校にはブラスバンド部がないので、財政面や指導される先生の問題もあるとは思いますが、今後、学園を開校していく中で、北学園と南学園が合同でできる部活として、また、情操教育の一貫としても、ブラスバンド部の設置を検討していただけるとよいと思います。近隣市町には吹奏楽部などがあるようですし、実際にやっている子どもたちに話を聞くと、高校生になっても続けたいという声を聞きます。競技の1つとして検討していただきたいと思います。

⇒まずは、令和5年度の開校時には、現有の部活動を両学園に開設し、子どもたちが安心してできることに重点を置いて検討を進めています。今後は、新しい競技についても検討を進めていきたいと思っています。

○先生方のモチベーションや、小学校と中学校の先生が一緒になるので、コミュニケーションをいかに高めていくのか、また、中学校の先生の中には、中学校の免許しかない方がおられ、小学校の経験が無く、小学校の教育文化が分からない、逆に小学校の先生も小学校の免許しかなく、中学校のことが分からないということがありますが、お互いのことを知るということを今後どのように進めていけますか。学校運営部会の資料の中で、北方科などの職員研修の機会を設けるとありますが、これは、令和5年度から実施されるのか、あるいは、既に一体となったということを前提にしているのであれば、来年度から、又は、既に今年度実施されているのでしょうか。

⇒来年度については、北方科実践部会、ICT教育推進部会、英語教育推進部会、9年間のカリキュラム検討委員会を設置し、検討及び実践を行います。この4つの部会が柱となり、教員の研修等も進めていきたいと考えています。

⇒教員のモチベーションや小中のコミュニケーションについては、北学園は職員室が1つになったということで、よりやりやすくなったと感じております。来年度は、現在中学校がやっている教科部会に、小学校の教員も参加していただき、一緒に考えていきたいと思っています。今年度から、北方小学校と北方中学校の教員は兼務辞令が発令されており、お互いに行き来できる環境にあるため、小中が連携を図りながら、その情報を共有していくということを進めていけるとよいと思います。また、今年度も北方南小学校には、北方中学校の英語と音楽の教員が指導に行っておりますが、来年度については、教育委員会とも相談し、北方中学校の教員が、町内のすべての小学校に何らかの形で行けるとよいと考えております。

⇒北方南小学校は、まだ、小中の教員が一緒になっていないため、教員の意識が遅れていると感じています。南小校区の子だけが1年生から9年生まで通ってくる地域の学校ということ先生方には意識してもらいながら、来年度開校に向けて進めていきたいと考えています。そこでまず、今まで小学校の授業の研究は、教科ごとにやっておりましたが、開校も見通して、いろんな教科で、夢中になる授業ということをどの教科でもやっていきたい

と考えています。先生方に、自分たちが学校を新しく作りあげていくという意識を持っていただくために、この準備委員会で提案されたことをもとに、来年度1年間かけて、行事などについても、学校内で部会を設けて検討していきたいと考えています。

○北方町の学校の先生は異動が多いため、学校の伝統や文化について、教員の異動に任せるとブツ切れになってしまう可能性があります。北方中学校は、大変歴史や伝統のある学校ではあるのですが、過去を振り返ってみると、途切れているところがいくつか見られ、子どもたちは変わらず、脈々と続いているのに、なぜこのようなことになるのかと考えたときに、小学校は比較的取り組みが伝統的に残っていると感じていますが、小中が一緒になるこの機会に、特に中学生の生徒たちが、我が校の伝統であるとか、大事にしていくものを作っていけるような取り組みが、令和5年度の開校の1年目にあるとよいと思います。

⇒中学生がリードして進めていくということについては、そのとおりであると思います。今朝の挨拶運動でも、中学生が小学生と一緒に実施するところを見ていただきました。また、北方サミットでは、中学生がリードしながら、「北方町をこんな町にしたい」という願いを、小中学生が一緒になって考え、この願いを実現するためには、各学校でこういった取り組みができるかということをお互いに発表し合いました。中学生がリーダーとして小学生と一緒に進めていけるような活動を今後も進めていきたいと考えています。

○今年度後期に、岐阜大学教職大学院と北方町内の小中学校の教員が一緒になって、教科も混合とし、協働で授業づくりを考えてみようという取り組みをしました。この協働授業開発プロジェクトでは、若手の教員が今後挑戦したいことや授業をするうえで悩んでいる部分についてテーマ分けし、それぞれにベテランの担当院生と北方町内の先生をグループ分けして、授業研究を行いました。1月13日の公開授業の当日までには、何回かグループごとに打合せをし、オンラインで何度かやりとりをしました。その後、今回の取り組みで得た資料をもとに大学で分析を行い、学校の先生方に、今後の期待であるとか、とてもよかったところなどを報告させていただきました。小中の教員が一緒になり、教科も混合で考えるということ、今回は特に教育委員会の研修としても位置付けて進めて参りましたので、それなりに意味のある取り組みになったと思います。これはあくまでも入り口として大学が関わりましたが、今後は町内で、北学園と南学園で、いろんな形でやっていると、義務教育学校としての新しい教科観や子どもの発達観、教師の視野を広げ深めていく北方町らしい研修のあり方を作っていく一つのきっかけとして位置付けていただき、また、こういった方向を北方町の伝統としていただきたいと思います。またこういった取り組みを岐阜県全体に発信し、教員の育ちの場としての義務教育学校を設定していただけるとよいと思います。

○子どもへの教育効果を考えたときに、学校がやっていることと、保護者が家で家庭教育としてやっていることと、地域がやっていることのベクトルが同じ方向に向いていないと効果が上がりにくいということが前提としてありますので、学校の教育目標や、伝統を受け

継いでいくということに関する方針のすり合わせについてコミュニティスクールを起点にしてやっていただけるとよいと思います。子どもへの肯定的な働きかけに関して、学校と保護者と地域のアプローチが一貫していた方がよいと思います。先生方の子どもへの肯定的な働きかけは、子どもにとっては当然メリットがあるが、先生方のやりがいを上げるというデータがあり、子どもが変わってくれたことによって、先生方が効力感を感じるということがありますので、地域や保護者にもこういった効力感を感じてもらえるような学園としてのあり方を考えていただくとよいと思います。その際に重要になってくるのが、生徒指導や教育相談の分野で、子どもが何に困っているのかを客観的に把握することがすごく大事で、その困り感に応じて、学校の先生や保護者が働きかけることが重要になってくると思います。それでは、子どもの困り感はどうやって把握するかというと、SDQというアセスメント方法がありますので、幼保小中、発達軸に沿って北方学園を構想されておられるので、こういった手法を使って、幼稚園や小学校の早い段階からこどもの困り感を把握して、同じベクトルで保護者や学校が関わる仕組みがあるとよいと思います。また、教育相談や生徒指導に関するチームを、幼保小中でどのように縦でチーム化していくのが重要なポイントであると思います。

○北方科の一貫で、防災関係の外部講師として、総務危機管理課の職員を派遣させていただきました。その後、子どもたちからお礼と感想のお手紙をいただき、その内容を読んだところ、私たちが伝えなかったことがそのまま返事になって戻ってきて、願ったことが効果として出た証拠であり、大変うれしく思いました。行政としては、地域づくりがとても大事であるとは思っていますが、近年行き詰まり感があり、今回のような学校と連携して、子どもたちを通してできたことは、新たな取り組みとして大変有効であったと思いますので、引き続き、学園となったことでより強く連携できるとよいと思います。

○学校と地域の交流ということで、従来からいろんな形で参加させていただく機会がありましたが、昨今はコロナ禍のため、なかなか自治会の中でもふれあいの交流が難しい現状があります。そこに学校を含めるということになると、活動がしにくい現状ではありますが、今後も学校などとも相談しながら、進めていきたいと考えています。

○町立こども園の開園に向けて、来年度は園児の募集などもありますので、教育委員会と福祉こども課で連携し、保護者や園児にとってよい方向へ進めていきたいと考えています。北方科の教科書に、福祉こども課の仕事内容についても載せていただきましたので、子どもたちが役場の仕事について深く知ってもらえるとよいと思います。

事務局：次に「前回の保留事項について」ということで、「こども園の園歌」について説明する。このことに関して意見を求める。

(主な協議内容)

○北方科を進めている中で、町立幼稚園の園歌には、歴史や文化に根付いた文言「時の太

鼓」や「仁王様」が使われており、そういった文言を取り入れていただければという思いがありました。子どもたちにとって、お絵かきやかけっこは遊びの中の一貫で、いろんなことを培っていくという教育の中にあることで、歴史に触れることがなかなか難しい年齢の園児が、園歌を歌うことで歴史に触れることができるよいのではないかということで、以前もお話させていただきましたが、園児や保護者がこの園歌でよいという意見であれば、それを受け入れることとします。

⇒町立幼稚園がなくなり、町立こども園ができるということではなく、町立幼稚園を引き継ぎ、町立保育園も加わり、新たに町立こども園ができるということで、教育方針なども町立幼稚園の方針を町立こども園が引き継ぎ、今後も大事にしていきたいと考えています。仁王様などは大事な文化財であるので、北方科の教科書に載せ、町の歴史や文化を学ぶのにふさわしい年齢になったときに意味も分かって学ぶということで、こども園では町の自然や遊び、学校に入ってから、歴史や行政など順に学んでいきたいと考えています。

委員長：以上で協議を終了する。開校準備委員会として本日の提案内容について原案のどおり了承することとする。

委員長：最後に、その他の事項について事務局に説明を求める。

事務局：事務連絡として、北学園内の新校舎の見学のご案内と、来年度の委員会の日程及び委員の引継ぎ等について説明する。

委員長：以上で本日の会議を終了する。（11時5分終了）